

保健体育科（体育） 学習指導案

〇〇高等学校

授業者 〇〇 〇〇

1. 日 時 令和3年〇月〇日（〇）第〇時限

2. 場 所 グラウンド

3. 学年・組・教科（科目） 第2学年・体育

4. 単元（題材）名 E 球技 「ウ ベースボール型 ーソフトボールー」

5. 単元（題材）の目標

- （1）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。また、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防することができる。【知識及び技能】
- （2）生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- （3）球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。【学びに向かう力、人間性等】

6. 教材観

ソフトボールは、中学校の時にも教材として多く取り上げられている球技である。その分、馴染みが深く、取り組みやすい種目である。個人の能力が必要であるので、個人の課題がどこにあるのかを考えさせたり、チームとして何が足りないかをお互いにコミュニケーションを図りながら考えさせたりすることができる種目である。また、授業を進めていく中で、運動の技能に対しては差があるが、その差を利用し、技能が低い生徒に対して、技能が高い生徒が教授することができるように指導でき、さらにチームでプレイする種目であるため、作戦をチームみんなで考えたり、技能が低い生徒へのサポートをチームで考えたりしてゲームを実行できるように指導できる種目である。コミュニケーションを図る場面が多く、自分の意見を相手に伝えようとするのをねらいにすることができる。

7. 生徒観（省略）

8. 指導観

球技は、個人の運動の技能だけではなく、集団としてのチーム力が必要不可欠である。ソフトボールは、生徒たちにも馴染みが深い種目である。ペアやグループという少人数で活動させることで、個人の技能を高めるだけでなく、お互いに教えあう場面を作ることにより、技能が高い生徒は技能の低い生徒に教えることで、より一層技能が高まることが期待され、さらに技能が低い生徒は、技能が高い生徒から直接コツやポイントを学ぶことができ、また、相互のコミュニケーションが生まれる。なぜできないのか、なぜできるのかを相互に考えさせることで、暗黙知を高め、その知識・技能をより一層向上させることができるようにする。また、ゲーム等を通じ、他を認め合ったり、自分自身の考えを伝えたりする場面を多く取り入れ、生徒の思考力・判断力を培っていきたい。

9. 単元（題材）の評価規準

a 知識・技能		b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践といった過程があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②課題解決の方法には、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、言ったり書き出したりしている。	○技能 ①身体全体を使ってバットを振りぬくことができる。 ②ボールの高さやコースなどにタイミングを合わせてボールをとらえることができる。 ③打球のバウンドやコースに応じて、タイミングを合わせてボールを捕ることができる。	①課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見することができる。 ②チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てることができる。 ③チームでの学習で、合意を形成するための調整の仕方を見付けることができる。	①一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。

10. 単元の指導と評価の計画（全7時間）

※（ ）内の数字は時間数

*○必要に応じて評価する（指導に生かす評価）

◎全生徒を評価する（記録に残す評価）

時	学習内容	評価の観点				主な評価規準・評価方法
		a		b	c	
		知	技			
第1次 (1)	簡易ゲームをしよう	◎			○	【a 知①】自分に足りない技術について言ったり書き出したりしていると同時に、それに必要な練習方法について言ったり書き出したりしている。(ワークシート・観察)
第2次 (3)	投げる・キャッチ・バッティング①	○	○	○		【a 技①②③】様々な高さの打球に対して打ち返すことができる。また、打たれた打球に対して、適切な守備ができています。(観察)
	投げる・キャッチ・バッティング②チーム戦Ⅰ		◎	◎	○	【b①】チームで練習をし、自身やチームに必要な技術について話し合い、ワークシートに記入できている。(観察・ワークシート)
	投げる・キャッチ・バッティング③チーム戦Ⅱ 本時		○	◎	◎	【b②】チームに必要な練習方法を計画できる。(観察・ワークシート) 【c②】必要な技術についてチーム内でお互いにアドバイスし合おうとしている。(観察)
第3次 (3)	ゲームⅠ			○	◎	【a 知②】ゲームを通じて、今までの課題が達成できたり、新たな課題を発見したことを言ったり書き出したりしている。(観察・ワークシート)
	ゲームⅡ	◎		◎	○	【b③】課題解決に向けた目標の設定で、チームの合意を形成するための調整の仕方を見付けている。(観察、ワークシート)
	ゲームⅢ	総括的な評価				【c①】一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。(観察)

※7時間目の総括的な評価では、必要な観点や個々の生徒について最終確認を行う。

10-1. 記録に残す評価についての判断基準表

【a 技①②③】「ボール操作や安定した用具の操作」

A（十分満足できる）	B（満足できる）	C（指導が必要な生徒例と手立て）
・身体全体を使ってバットを振りぬき遠くに打つことができる。 ・ストライクゾーンに入っているボールの高さやコースを見極め、タイミングを合わせてボールをとらえることができる。 ・打球のバウンドやコースに応じて、イレギュラーな打球に対しても柔軟にタイミングを合わせてボールを捕ることができる。	・身体全体を使ってバットを振りぬくことができる。 ・ボールの高さやコースなどにタイミングを合わせてボールをとらえることができる。 ・打球のバウンドやコースに応じて、タイミングを合わせてボールを捕ることができる。	・腕の振りだけでバットを振りぬいている姿、打つ瞬間に片手でボールをとらえようとしている姿に対しては、技術の高い生徒の動きを足や腰の動きに注目するよう指導する。 ・打球のバウンドやコースに応じて、タイミングを合わせてボールを捕ることができない姿には、ゴロや低いフライをペア等を組み練習する時に、落下地点やコースを意識することができるよう指導する。

【b①】「チームや自己の課題を発見する」

A（十分満足できる）	B（満足できる）	C（指導が必要な生徒例と手立て）
自身の課題を発見し、どう練習していけば良いかをシートに記入できている。練習をする中で、課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見することができ、チームのメンバーに伝えている。	課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見することができる。	自身に必要な技術が見出せていない姿、チームの課題が見出せていない姿には、必要な技術一覧表を作成しておき、選択することできるようにしたり、具体的に体を動かしたりすることができるよう指導する。

【b②】「合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する」

A（十分満足できる）	B（満足できる）	C（指導が必要な生徒例と手立て）
チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立て、仲間に指示して練習することができる。	チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てることができる。	ワークシートに練習方法一覧表を作成しておき、そこから選択できるようにしておく。

【b③】「自己やチームの考えたことを他者に伝える」

A（十分満足できる）	B（満足できる）	C（指導が必要な生徒例と手立て）
話し合いの際、司会を務めたり、出た意見をまとめたりすることができている。出た意見を否定するのではなく、取り入れる姿が観察できる。	チームでの学習で、合意を形成するための調整の仕方を見付けることができる。	司会や意見を出すことができる生徒をST（Student Teacher）に置き、意見があるかを聞き出したり、ワークシートに意見を書いたりするように指導する。

【c①②】「共生社会の実現と互いに助け合い高め合おうとすること」

A（十分満足できる）	B（満足できる）	C（指導が必要な生徒例と手立て）
・エラーをした時に、否定的ではない声かけやアドバイスをしていたり、ワークシートにファインプレーなどの良いプレーや改善するプレーについて記述しているなど、一人一人の違いに応じたプレーなどを大切にしよう	・一人一人の違いに応じたプレーなどを大切にしようとしている。 ・仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	・否定的な発言をしている姿、必死にやろうとしている姿を応援できない行動をしている姿に対しては、個別に何が不満なのかを聞いたり、チームで話し合いをすることができるよう指導する。

としている。 ・自分で気づいた仲間の課題を声かけやワークシートに記述すること、さらには話し合いで指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。		・自分の課題に対してのみ行動を考えている姿には、チーム全体の技術が向上することで楽しさも高まることを指導したり、全体の力が上がることのメリットを考えることができるよう声かけする。
--	--	---

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分の課題を見つけたり、仲間に足りない技術の課題を発見しよう。【思考力、判断力、表現力等】
- ・仲間に必要な技術に対し、アドバイスし合おう。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の評価規準

- ・【b①】 チームで練習をし、自身やチームに必要な技術について話し合い、ワークシートに記入できている。
- ・【c②】 必要な技術についてチーム内でお互いにアドバイスし合おうとしている。

(3) 本時の準備物

- ・学習プリント（ワークシート）
- ・ソフトボール一式（4セット）
- ・マーカー4つ
- ・筆記用具

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
5分 導 入 ①	○挨拶 ○本時の確認 ・本時の目標を確認する。 自身やチームの課題を見つけ、練習していこう	・体調把握しながら出欠点呼をする。	
10分 導 入 ②	○準備体操 ○補強 ○ストレッチ	・今から動かす筋肉を意識することができるように、また、ストレッチの際、呼吸を忘れないように声かけをおこなう。	
5分 展 開 ①	○前時のふりかえり ○チームに分かれてワークシートに記入したり、練習方法を選択したりする。	・ワークシート配布 ・前時までに出的意見等を全員で振り返る。 ・自身に必要な技術を選択させる。 ・チームに必要な技術と練習方法を選択させる。 ・ワークシートの一覧表から選んだり、自由に記述できるように声かけをする。	
20分 展 開 ②	○チームで練習 ・次回以降のゲームに向けてチームに必要な技術を練習する。	○チーム間指導をする。 ・個人に足りない技術は教え合うように指導したり、技術の高い生徒にアドバイスするよう伝えたり、なぜできるのかを考えさせるよう声かけする。	【b①】チームで練習をし、自身やチームに必要な技術について話し合い、ワークシートに記入できている。（観

			察・ワークシート) 【c②】必要な技術についてチーム内でお互いにアドバイスし合おうとしている。(観察)
5分 ま と め	○学習の振り返り ・授業を通して理解したことやこれからの活動に必要なことを考え記入する。 ○挨拶	・学習内容のまとめを行わせる。	